

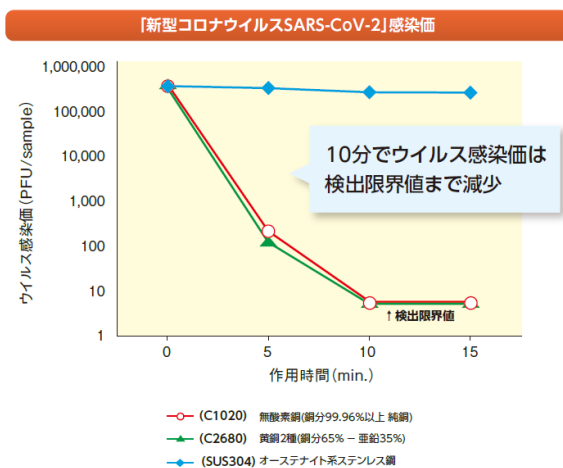
2021年12月16日

銅及び銅合金の「新型コロナウイルスに対する不活化効果」について

日本銅センターでは、奈良県立医科大学の協力を得て、銅及び銅合金の「新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）に対する不活化効果」について評価試験を行いました。

試験材は銅（無酸素銅 C1020）及び銅合金（黄銅 2 種 C2680）、比較の為にステンレス鋼（SUS304）の 3 種類とし、結果、銅及び銅合金はわずか 10 分間でウイルス感染価の検出限界値まで減少、この時の減少率は 99.997% でした。

不活化効果についての試験結果の詳細は以下の通りです。



○試験方法：ISO21702(プラスチック及びその他の非多孔質表面の抗ウイルス活性の測定)に準じる

○試験開始時のウイルス感染価：

2.93×10^5 (PFU/sample)

○検出限界値： 5.00×10^0 (PFU/sample)

○検出限界時の比較材に対する感染価減少率：

99.997%

○試験協力：奈良県立医科大学

なお、本試験の詳細は下記奈良県立医科大学の Web サイトでもご確認いただけます。

<https://www.naramed-u.ac.jp/university/kenkyu-sangakukan/oshirase/mbtsars-cov-2-page4.html>

<本件に対するお問い合わせ先>

広報部 TEL 03-3836-8821

E-mail info@jcda.or.jp